

「古都祝奈良 2018-2019」事業計画（案）

■美術部門

「グリーン・マウンテン・カレッジ」の開校

※注

アメリカのノースカロライナに1933年に作られた伝説の芸術学校「ブラック・マウンテン・カレッジ」に着想を得た、アートを体験する新しい取り組みを行います。

この取り組みの提案者である小山田徹氏（京都市立芸術大学教授）は、奈良市でこのカレッジを開校するにあたり、若草山の緑をイメージし「グリーン・マウンテン・カレッジ」と命名しました。

このカレッジでは、毎回様々な分野の第一線で活躍しているゲストを招き、参加者と空間を共有します。テーマは「宇宙」「生命」「社会」など多岐に亘り、そこで生まれる対話を重視します。ゲストと参加者が「教える人」「教えられる人」に分岐するのではなく、双方向の対話によって、お互いのテーマへの理解が深まっていくことが狙いです。

アートプロジェクトとして位置づけている取り組みですが、アートは飽くまで手法であり、目的ではありません。テーマに対してどのようにアートが関わってくるのかは、参加者が対話の中で理解していくこととなります。なお、この取組みでは焚き火（それに類するもの）を使います。参加者が火を囲むことによって、自然と対話が生まれてくることを重視しています。

アートという言葉の意味を問い直す画期的な取り組みとして、様々な会場で実施します。

グリーン・マウンテン・カレッジ開校に寄せて

小山田 徹

開校式では、学び合いの場を創る為に、まずは焚き火を核に人々が集い出会う場と時間を皆で創出しましょう。焚き火は人類最古で最小で最強の共有空間です。緊急災害時にも有効に作用します。火を熾す技術や知識は太古の昔から人々が伝えてきた学びの原点です。

学びとは、自らの知識や経験を増やすだけでなく、獲得したものを次世代へ伝えていくということまで含みます。つまり、今私が学ぶという事は、未来の子供達の為に学んでいるという事です。あらゆる生活の知恵や技術、様々な学問も伝える為に学ぶという事がベースにあります。ましてや美術もそうです。多様なものの見方や捉え方、感情の表し方、価値観の発見などは、表現や言説、態度などを通して人々と共有され、次世代、未来へと伝えられていきます。アートフェスで学びの場を作ることは、ある意味、必然なのです。

様々な事象を様々な方法で捉え、咀嚼して自らのものとし、それを未来の他者へと手渡していく。文化というものの本質的な事を、今一度皆で一から作り出してみる。グリーン・マウンテン・カレッジの企画は、その様な持続的な価値の共有を目指した企画です。

火を囲む対話の場

ならまちセンター芝生広場で開催のイメージ



その他の実施候補場所



J R奈良駅前



興福寺中金堂前



若草山ふもと



御霊神社

※ブラック・マウンテン・カレッジ

1933年から24年間ほどアメリカのノースカロライナで開設された伝説的な芸術の学校。音楽家のJ・ケージ、振付師のM・カニングハム、建築家のB・フラワー、現代美術作家のR・ラウシェンバーグなど多様でそうそうたる講師陣が集結し、相互学習的で実験的な学びの場を模索し、異なる芸術理念、思想、技術を共有する横断的な文化的実践の拠点として、その後の文化・芸術活動に与えた影響は計り知れない。

スケジュール

回	日時	テーマ	講師	場所	備考
1	10月13日 (土) 16:30~20:00	開校式(焚き火)	小山田徹	ならまちセンター	
2	10月21日 (日)	ジェンダー	山田創平・あかたちかこ	ならまちセンター	
3	11月17日 (土)	ワークショップ	チェ・ジョンファ 小山田徹	未定	日程 要調整
4	12月1日 (土)	宇宙	松井紫朗	未定	
5	12月16日 (日)	宇宙	磯部洋明・松井紫朗	未定	
6	1月14日 (月)	生命	河瀬直美・松岡悦子	未定	要調整
7	2月2日 (土)	閉校式(焚き火)	小山田美穂子・西尾美也	未定	

ゲスト講師プロフィール

小山田徹（こやまだ とおる）

1961年鹿児島生まれ、京都府在住。美術家／京都市立芸術大学美術学部教授。京都市立芸術大学日本画科卒業。1984年大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。主に企画構成、舞台美術を担当し、国内外の数多くの公演に参加。ダムタイプの活動と平行して1990年から、さまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」「コモンカフェ」「祈る人屋台」「カラス板屋」などの企画を行う他、コミュニティカフェ「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加するなど、さまざまな友人らと造形施工集団を作り共有空間の開発を行う。

山田創平（やまだ そうへい）

1974年群馬県生まれ。都市社会学者／京都精華大学准教授。名古屋大学大学院博士課程修了。博士（文学）。専門は社会学（芸術と地域、マイノリティと地域、都市空間論）。国内外のさまざまなアートプロジェクトでリサーチやコンセプトデザインに関わり、自らもインスタレーションやパフォーマンス、舞台作品の制作を行っている。編著書に『たたかうLGBT&アート〈同性パートナーシップからヘイトスピーチまで、人権と表現を考えるために〉』（法律文化社、2016年）、共著書に『ジェンダーと「自由」—理論、リベラリズム、クイア』（彩流社、2013年）、『キャリア・プランニング—大学生の基礎的な学びのために』（ナカニシヤ出版、2016年）などがある。

あかたちかこ

思春期アドバイザー。大阪人間科学大学、京都精華大学、関西学院大学非常勤講師、児童自立支援施設性教育講師。大学在学中に「エイズ予防」に興味を持つ。現在は思春期保健相談士として、HIV/AIDSを中心に、若者のからだ・性・恋愛相談など、セクシュアルヘルスとその周辺を専門分野とし、中学校、高校、大学、専門学校で生徒向け・保護者向けの講演、教職員やNGO職員対象の「教える側」に向けた講演や研修などを精力的に行っている。

松井紫朗（まつい しろう）

1960年奈良県生まれ、同在住。京都市芸術大学美術学部教授。1984年京都市立芸術大学彫刻専攻を卒業、1986年同大学院修士課程修了。在学中より作品を発表し、80年代には関西圏で現れた新表現主義「関西ニューウェイブ」を担うアーティストの一人として注目を集める。1990年代にシリコンラバーを使った作品やテント用の素材を使ったトンネル状の大作を発表、以降、人工素材を用いて空間に特異な変容を与える作品を次々と展開。国際宇宙ステーション「きぼう」で実施された松井のプランニングによる最新パイロット・ミッション「手に取る宇宙～Message in a bottle～」も継続中。

磯部洋明（いそべ ひろあき）

1977年神奈川県生まれ、京都府在住。京都市立芸術大学美術学部准教授。専門は宇宙物理学。特に黒点、プロミネンス、太陽フレアなど、太陽のさまざまな活動現象を研究。2005年

京都大学大学院理学研究科博士後期課程物理学・宇宙物理学専攻修了。太陽フレアなどの太陽の活動現象を中心に、磁場とプラズマの相互作用に起因する天体活動現象を研究している。また「宇宙」をキーワードに様々な分野の研究者がコラボレートする場を作りたいと考えている。

河瀬直美（かわせ なおみ）

1969年奈良県生まれ、同在住。映画監督。生まれ育った奈良を拠点に映画を創り続ける。一貫した「リアリティ」の追求はドキュメンタリーフィクションの域を越えて、カンヌ国際映画祭をはじめ、世界各国の映画祭での受賞多数。世界に表現活動の場を広げながらも故郷奈良にて、2010年から「なら国際映画祭」を立ち上げ、後進の育成にも力を入れる。最新作『Vision』（主演：ジュリエット・ビノシュ、永瀬正敏）は6月8日より全国公開。また、11月23日よりパリ・ポンピドゥセンターにて、大々的な河瀬直美展が開催。

松岡悦子（まつおか えつこ）

1954年生まれ。奈良女子大学生生活環境学部生活文化学科教授。1983年大阪大学大学院人間科学研究科人間学専攻博士後期課程単位取得退学。専門は文化人類学、医療人類学、ジェンダー論。研究テーマは妊娠・出産の比較を中心とするリプロダクション。日本、アジア、ヨーロッパでの長年のフィールドワークから、医療を相対化し、女性が健康で満足できるお産のあり方を提唱する。主な著書に『子どもを産む・家族をつくる人類学：オルターナティブへの誘い』（勉誠出版、2017年）、『妊娠と出産の人類学—リプロダクションを問い直す』（世界思想社、2014年）、『出産の文化人類学—儀礼と産婆』（海鳴社、1991年）などがある。

小山田美穂子（こやまだ みほこ）

1977年香川県生まれ、京都府在住。洋裁師。東京の専門学校で服飾を学んだ後、2000年に叔母である柴田法子がかつて60年以上前に高松に開校した「柴田洋裁学院」を京都に復校。家庭洋裁を伝えるべく、教室やワークショップを開催中。NHK「すてきにハンドメイド」出演。主な著書に『おさいほうスタートBOOK』（中央公論新社出版、2007年）。

西尾美也（にしお よしなり） ※「古都祝奈良 2018-2019」美術部門プログラムディレクター

1982年奈良県生まれ、同在住。美術家／奈良県立大学地域創造学部准教授。2011年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。専門は先端芸術表現。文化庁新進芸術家海外研修制度2年派遣研修員（ケニア共和国ナイロビ）。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目し、市民や学生との協働によるプロジェクトを国内外で展開している。2009年には西尾工作所ナイロビ支部を、2013年にはアラカワ・アフリカ実行委員会を結成し、アフリカと日本をつなぐアートプロジェクトを企画・運営している。現代美術家として探究してきた装いに対する考察をもとに、2011年にはファッションブランド FORM ON WORDS を、2018年には NISHINARI YOSHIO を設立。

チェ・ジョンファ氏の作品制作、ワークショップ

昨年度に引き続きチェ・ジョンファ氏による作品制作及びワークショップ等を実施します。

「生活とアート」の関係性をテーマに創作活動続けるチェ・ジョンファ氏は、前回実施したアートディスカッション「生生活活」の中で、「奈良市に愛着を感じている。芸術には昔と今を合わせていかなければならない。これができるのが奈良であり、これからも奈良で創作活動をやりたい。」と述べられました。

これを受けて、「古都祝奈良」の取り組みとして、今後チェ氏の視察を経て活動場所を確定し、制作・展示・ワークショップ・ディスカッション等を実施します。

テーマ (日本語) 花の舍利塔
(英語) **Blooming matrix**

日時 11月17日(土)もしくは18日(日)

11月15日・16日に開催される「造形表現・図画工作・美術教育全国大会」に日程を合わせて実施することにより、全国から来られる先生方に参加を呼びかけ、本プロジェクトの周知を図ります。

チェ氏のプログラムもグリーン・マウンテン・カレッジの特別ゲストと位置づけ、カレッジの事業との有機的な連携をめざします。



参考：過去作品より

■演劇部門

青少年と創る演劇「ならのはこぶね」の上演

次代を担う若者が創作の過程を演劇のプロとともに経験することで、創造する喜びを体感し、その成果を発信するとともに、地元である奈良を自分の言葉で語ることができる人材を育成することを目的とした事業で、オーディションで選ばれた中・高生が、2016年に上演されたオリジナル演劇「ならのはこぶね」に新たな演出を加えて上演します。作・演出は、引き続き「古都祝奈良 2018-2019」演劇部門プログラムディレクターの田上豊さんが行います。

作・演出：田上豊（劇作家、劇団「田上パル」主宰）

作 品：ならのはこぶね

あらすじ：ときは、現代。学校で奈良（平城）時代の考察、再発見を促された高校生。教科書を地図代わりに読み進めて行くも、歴史に余白が多く実感に辿り着けない。劇化し発表することを指示された今、実感なしでは作品なんか無理！と大混乱。学年発表はもう近い！となりのクラス「平安時代」は豪華絢爛。焦りに焦る「平城」クラス。よりによってキーパーソンの鑑真役はずっと学校来てないし、クラスの仲も良くないし、どうなっちゃうの、私たち。歴史の海に漂い、小舟で浮かぶ高校生達。私たちは、遣唐使。時代をまたぐ遣唐使。きっと戻ってきてみせる。高校生達の歴史の冒険が、航海が、今始まる。

（1）平田オリザさんによる演劇入門ワークショップ

演劇を通じたコミュニケーションを体験するワークショップを開催します。

と き：平成30年8月20日（月） 18:30～21:00

と ころ：なら100年会館小ホール

参加者：一般公募による中学生以上の市民等40人

（2）オーディション

「ならのはこぶね」オーディションを開催し、出演者21人を選考します。

と き：平成30年9月22日（土）～23日（日）の2日間 13:00～17:00

と ころ：北部会館市民文化ホール多目的室1

参加者：一般公募による中・高生

(3) 稽古

公演に向けて稽古します。今回は、出演者に早期にシナリオを配付し、台詞を覚えてきていただいた上で、短期間に集中して実施します。

また、出演者の保護者に、事業に対する理解を深めていただくため、稽古期間前に保護者対象の説明会を開催するとともに、稽古期間に公開稽古日を設ける予定です。

と き : 平成 30 年 12 月 11 日 (火) ~ 22 日 (土) の間の 11 日間

ところ : ならまちセンター多目的ホールほか

参加者 : オーディションに合格した中・高生

(4) 公演

今回の仲間と創り上げる公演となります。

と き : 平成 30 年 12 月 23 日 (日)

ところ : ならまちセンター市民ホール

入場料 : 無料